



Title	コロナ新時代における国際交流活動の展開：大阪大学におけるオンライン留学生リクルートの実践と課題
Author(s)	張, 希西; 李, 明; エンクトゥル, アリウナ 他
Citation	大阪大学高等教育研究. 2021, 9, p. 41-49
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/79441
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

コロナ新時代における国際交流活動の展開

— 大阪大学におけるオンライン留学生リクルートの実践と課題 —

張 希西^{*1}・李 明^{*1}・エンクトウル アリウナ^{*1}・石川 真由美^{*1}・小溝 裕一^{*1}

International exchange activities at Osaka University in the Covid-19 Era: Practices and Challenges of Online International Student Recruiting

ZHANG Xixi^{*1}, LI Ming^{*1}, ENKHTUR Ariunaa^{*1}, ISHIKAWA Mayumi^{*1}, KOMIZO Yuichi^{*1}

新型コロナウイルス禍のために、移動を伴う人的国際交流には厳しい制限が課せられた。一方で、対応策を講じざるを得ない状況のために、むしろ従来にない新しい方法を考え、実行する経験を通して貴重な教訓を得た。本稿では、大阪大学における「龍門窓口のオンライン申請システム」「オンライン留学説明交流会」「遠隔授業」といった「オンライン」による留学生リクルート活動の有機的な連携に関わる実践事例を紹介する。オンラインという手法は、これまで留学生リクルート活動に十分活用されていたとはいえないが、コロナ禍のもとでの実践を通して、1) 外国人在学生や卒業生、部局の教員など多様なステークホルダーの参加、2) 学内リソースの関係者間共有、3) 低コスト、等の利点が明らかとなった。さらに、経験を重ねるなかで、オンラインコンテンツの充足、留学生へのアウトリーチ活動を行う国・地域の拡大、異なる事業間の効果的な連携による相乗効果などの副次的なメリットも分かってきた。今後も試行錯誤と新たな取組を続けることが、コロナ新時代における国際協働ネットワークの強化や国際交流推進に寄与すると考えられる。

キーワード：留学生、オンラインリクルート、新型コロナウイルス感染症、広報活動

COVID-19 disrupted international student mobility with border closures, lockdowns and severe restrictions on physical movement. However, surveys find that students are still interested in studying abroad. The pandemic situation in each country coupled with recent geopolitical tensions will inevitably influence international student mobility trend over the coming years. In this situation, we not only have to adapt our “traditional” international exchange practices but to use this situation proactively to improve our international student recruitment and engagement practices. In this paper, we present 1) how we shifted three existing methods of international student recruitment and engagement into online platform—Ryumon online application system, online study abroad information sessions and remote classroom for students at partner universities, 2) the challenges and benefits of utilizing these methods, and 3) how this practice helped us form a more holistic “online international student recruitment system”. Although there are challenges for each tool or platform, there are much more merits. For example, the online study abroad sessions that we adopted only due to COVID-19 restrictions helped us reach diverse participants without being bound by location, or involve alumni and faculty members in recruitment events. We hope the online and digital method will stay as an important part of international student recruitment and engagement work to enhance our internationalization efforts.

Keywords : International students, Online recruitment, COVID-19, Public relation

所 属：^{*1}大阪大学グローバルイニシアティブ・センター

Affiliation：^{*1}Center for Global Initiatives, Osaka University

連絡先：sissizhang@cgin.osaka-u.ac.jp（張 希西）

1. はじめに

2020年初頭より新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の世界的拡大が、教育・研究の国際交流や留学生リクルート活動に大きな影響を与えてきた。物理的なモビリティが著しく制限されるコロナ新時代において大学が海外から優秀な人材を受入れ続けるためには、質の高いオンライン体験を提供することが、優れたブランド戦略と並んで特に重要と指摘される（Watermeyer et al. 2020）。ウィズコロナ時代において、やむを得ず中断した対面の留学生リクルート活動を今後どのような形で実現していくのか。直接海外に出かけられない状況下、どのような対策を講じて国際交流の維持と発展に最善を尽くすことができるのか。これらの問いは、高等教育機関及び各教育関連組織にとって共通の課題である。

高等教育機関は、かつてなかったほどデジタルテクノロジーを駆使し、教育、学習、およびその他の多くの活動をオンラインに移行させた。同様に、留学生のリクルート活動もバーチャル空間に移動し、ウェビナー、講演、説明会などをオンラインで開催することとなった。コロナ前は、デジタル・プラットフォームは留学生リクルートの単なる選択肢の一つであったが、コロナ禍においては留学希望者とつながるための唯一のツールになった。

本稿は、このようなウィズコロナの状況下において、大阪大学の国際交流がどのような対策を講じ、実行してきたか、具体的な事例を紹介する。その特徴は、留学生のリクルートと出願サポートのためのいくつかのオンラインツールとプラットフォームを有機的に統合し、効果を高めることを目指した点である。この有機的な統合とは、中国の留学希望者向けのオンライン申請システム（龍門窓口）の構築と展開、オンライン留学説明交流会の開催、留学生リクルートのビデオなどのコンテンツの作成、および遠隔授業の実施といった異なる活動間の連携を強め、相乗効果を生むことである。本稿の目的は、オンライン留学生リクルートの実践の成果と課題を分析し、今後の計画と展望を提示しながら、ポストコロナ時代における国際教育交流と留学生リクルートについて考察し、提言することである。

2. 留学生受け入れの背景

2.1 優秀な留学生の受入に対する大阪大学の歩み

近年、大阪大学の留学生は目覚ましく増加し、2020

年5月1日現在の大阪大学の留学生の総数は2,611人と15年前の約2倍となっている。地域別に見ると、アジア出身の留学生が圧倒的に多く、本学の留学生全体の85%を占めている。また、出身国・地域から見ると、トップ5は中国（1,331人）、韓国（248人）、インドネシア（133人）、タイ（111人）、台湾（76人）の順となっており、特に中国出身の留学生は本学留学生の半数以上を占めている。アジア地域は本学における留学生獲得の要となっているが、他の総合大学と比べると目立って高い割合とは言えず、むしろ優秀な留学生獲得という質の観点や、大学にとっての重点分野における大学院生の獲得という戦略的な観点から改善の余地がある。

従来、留学希望者への広報活動は日本学生支援機構（JASSO）や国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）など主催の留学フェアへの参加が主であった。しかしながら、このような大規模フェアにおいては、来場した学生が多数の大学のブースの間で迷ったり情報のつまみ食い状態になったり、混雑した会場で学生や保護者らとゆっくり交流することが難しいという悩みがあった。これらを改善するために、近年は大阪大学独自の留学説明会、及び個別大学で実施する留学説明会の企画・実施が増える傾向にあった。

本学の留学生の半数以上を占める中国出身の留学生はその人数規模から、大学全体の留学生の質に大きな影響を与える。そこで、2017年から、特に中国の985・211プロジェクト大学⁽¹⁾と呼ばれる同国トップクラスの重点研究大学からの申請者を増やすため、中国において海外拠点を活用し、大学別留学説明会の開催をはじめ、ネットとメディアの活用により、戦略的な広報活動の強化を図ってきた。これまでに築いた中国の大学との良好な関係、大阪大学上海同窓会や北京同窓会などの卒業生のネットワークを活用し、2019年度には上海交通大学、同済大学、上海外国語大学、東南大学、北京科技大学、西安交通大学など中国の31大学で個別留学説明会を開催し、大阪大学の教員による学術講演会も行った。このような独自の広報活動の結果、中国の重点大学からの申請者が確実に増えていることが龍門窓口（中国から大学院及び研究生入学志願者の出願支援窓口）（李・石川・韓2019）の動向からも確認された。

このような個別大学における大阪大学単独の学術講演と留学説明会においては、学生たちに大阪大学の学術的な雰囲気を身近に実感してもらうとともに、質疑応答を通じて学生と直接交流することができた。中国人教員による中国語での大学説明は学生たちにとって非常にわか

りやすく、大阪大学との親近感を感じさせる効果もあった。このような「現地訪問」による留学説明会は、現地の教室でコンピューターとプロジェクターがあれば実施できる。オンライン配信によるリモート開催は技術的には可能であったものの、コロナ禍以前には実施されてこなかった。しかし、これらの対面の実施経験は、オンライン留学説明会を開催する上で、貴重な経験となった。

2.2 ウィズコロナにおける大阪大学の取組

2020年初めに新型コロナウイルスが拡散し始める中、各国の政府、民間組織、大学などが様々な感染防止対策を検討し始めた。感染防止のための取組とともに、新型コロナウイルス禍での活動に関しても、新たな対応策の必要性が高まってきた。大阪大学は、新型コロナウイルスと共存する社会を目指し、「大阪大学活動基準」及び「大阪大学における感染予防のための標準的対策」に基づいて活動を推進してきた。このようななか、ウィズ・コロナ／ポスト・コロナ社会の構築に向け、国や大阪府からの要請にも応えつつ、大学としての使命を全うすることの重要性が全学的に認識され、共有されてきた⁽²⁾。

大学の多様な活動の中で、国際交流事業は最も大きな影響を受けた。大阪大学は感染防止の対策とともに、早い段階で国際交流に関する対策を講じ始めた。すなわち、海外の大学との国際シンポジウムや学生交流などを柔軟な姿勢で積極的に進めてきた。以下では、新型コロナウイルス対応策として、2020年2月下旬から開催した、オンライン留学説明会、海外大学とのリモート会議、日中大学間の遠隔講義の実施、留学希望者のオンライン出願支援、プロモーションビデオの作成など、ポスト・コロナを見据えた、より多様で戦略的な広報活動の強化の具体例について詳述する。

3. オンラインリクルート体制と実施状況

新型コロナウイルス禍の下、海外に渡航できず、現地における学生との交流や留学説明会ができない時期において、既存のツールとコンテンツを活用しながら、新たな活路が模索された。この中で出来たのが、図1に示す三点連合システム、すなわち三つの部分を連動させ、有機的に一つに統合することで、相乗効果を生み出す方法である。この章では、3節に分け、「龍門窓口のオンライン申請システム」「オンライン留学説明交流会」と「遠隔授業」という三点連合オンラインリクルートシステムのそれぞれの構成部分について紹介する。

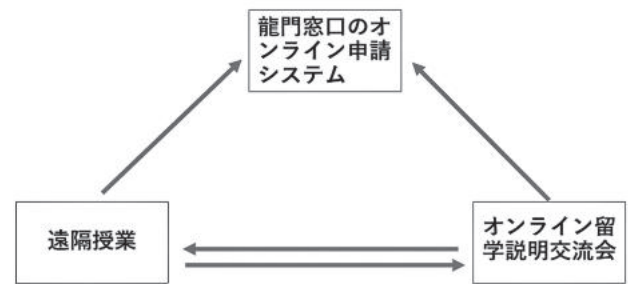


図1 三点連合オンラインリクルートシステム

3.1 龍門窓口のオンライン申請システム

前述のように、優秀な人材の獲得のためには、特に留学生の約半数を占める中国からの優秀な留学生の受け入れが重要である。そのため、中国からの留学希望者の選抜と効率的な受入が大きな課題となっている。しかしながら、大学院あるいは研究生としての入学希望が増える一方、当該志願者が直接本学教員に志望理由書や証明書を添付し入学希望を伝えても、証明書の真贋や在籍大学等のレベルの把握が容易ではなく、教員が回答するにあたって過重な負荷がかかっている状況が問題となってきた。これに対応するため、2017年9月にスーパーグローバル大学創成支援事業により、中国からの大学院及び研究生入学志願者の出願支援窓口「龍門窓口」がグローバルイニシアティブ・センター内に設置された。龍門窓口は、中国からの志願学生の書類等を一元的に受け付け、初期スクリーニングを実施し、教員や各部局と情報を共有することにより、教員の負担を大きく軽減させるとともに、本学を志願する際の書類の厳格さを要求しつつ、優秀な留学生の入学に繋がる手続きを円滑に進めることを目的とする（李・石川・韓 2019）。

明快な手続きとアクセスしやすい窓口の存在が留学希望者からの本学に対する信頼性の向上に繋がり、これまで蓄積したノウハウや情報の提供等の学内のニーズにも応え、利用件数は拡大している。本システムは、留学受入に関し、他の日本の有力大学との差別化には、非常に有効な手段である。さらに、書類の真贋を判定することは安全保障輸出管理の観点でも重要な役割を果たしている。

2019年度の処理件数は677件であり、2018年度より1.4倍強に増加した（2018年度476件）。現在では、全ての研究科で「龍門窓口」の利用があり、また、各部局の教職員からの、中国人学生の受入全般に係る照会も増加傾向にあり、中国の教育制度などの情報の提供も行っている。さらに、これまでの留学希望者への広報、本学HPや中国語によるネット情報の掲載、学内の教員や部

局事務からの紹介などによって、中国人学生から龍門窓口への直接申請が大幅に増加している。また、中国における本学の知名度の向上に伴い、211プロジェクトと言われる中国重点大学からの利用が開設時の2倍近くに増加した。追跡調査をおこなった結果、2018年度龍門窓口利用者の約4分の1が本学に入学したことが判明している。

2019年度は1年間をかけて、これまでの紙面による申請から、オンライン申請システムの開発に取り組み、

ホーム / 申請書

現在の申請書

基本情報

国籍/地域: 中国

身分証番号: 1234567

名前(英字): Osaka Yasuko

名前(漢字): 大阪 やすこ

生年月日: 1995/11/10

性別: 女

メールアドレス:

郵便番号: 560-0082

住所: 大阪府吹田市

電話番号1:

現在の身分: I am a student.



申請書

志望研究科(所): 言語文化研究科

志望教員: 大阪 大奥

研究テーマ: 中国における大学書の建設過程に関する国際化政策 —新書出版と電子書籍を中心に—

研究計画書・志望理由書: 研究計画書・志望理由書.pdf

推薦状:

希望留学課程: 研究生として入学(研究生・修士)

希望入学時期: 2021/04

学歴

種類	学校名	所在地 (国・市または県)	在学期間 / 証明書類
小学校	Suito	Osaka, Japan	1996/04 → 2002/03 [6年]
中学校	Suito	Osaka, Japan	2002/04 → 2005/03 [3年]
高等学校	Suito High School	Osaka, Japan	2005/04 → 2008/03 [3年]
大学(学部)	Suito Univ.	Osaka, Japan	2009/04 → 2013/03 [4年]

専攻: International Education 卒業証書.pdf

学習形式: 普通全日制、本科 学位証書.pdf

成績証明書.pdf

補定資料

補定資料	レベル/スコア	証明書類
日本語能力試験	N1/100	N1.pdf

奨学金

留学資金: 奨学金が得られない場合でも、必要留学の予定あり

職歴

勤務先名	所在地	在職期間
大阪大学	日本	2020/04 → 2020/07

龍門とのコンタクト

龍門とのコンタクト: 日本語

コメント:

申請内容を編集・保存する 龍門へ送信

図2 龍門オンライン申請システム

2020年6月に同システムが稼働した。従来はメールで申請を受け付けていたが、オンライン上での出願によって留学生、教員双方の利便性が高まり、個人情報保護の観点からもメリットがある。システムには、龍門窓口と教員の間に部局事務が介在できる機能もあるため、部局事務との連携により、事務負担も軽減される。さらに、システムの稼働により、全学における中国人学生の申請状況を一元的に管理、分析しやすくなり、申請受入れ業務の効率化にも役立つ。

奇しくも、オンライン申請システム稼働と新型コロナウイルスの拡大が重なった訳であるが、このようなシステムはロックダウンなどの外出制限や郵便事情が悪化するなかで、学生の利便性を高める効果がある。さらに、終息後は留学生の受入が再活性化されることが期待され、将来を見すえてオンラインによる受け入れ態勢を強化することに意味がある。今後は中国以外の国・地域への活動拡大のため、留学希望者が多い国・地域の教育制度、ローカルランキング、入試制度の調査を実施し、オンライン申請システムの適応拡大を検討中である。

3.2 オンライン留学説明交流会の計画と実施

新型コロナウイルス対応策として、目覚ましい成果を上げてきたのがオンライン留学説明交流会である。大阪大学グローバルイニシアティブ・センターでは、ZOOMなどを活用し、中国、モンゴルなどの東アジア地域、インドネシア、ミャンマー、ベトナムなどのASEAN地域の学生向けのオンライン留学交流会を開催した。さらに、分野別のオンライン留学説明会も順次行っている。

実施経験を積み重ねる過程で、大阪大学のオンライン留学説明会の実施基準や準備プロセスはかなり定型化してきた。しかし、ここに至るまでの数か月の間には様々な試行錯誤があった。

計画した海外大学への出張がコロナ禍で中止になる状況を受け、大阪大学グローバルイニシアティブ・センター海外拠点部門は、2月下旬の時点でオンラインという方法を使い、行動すべきだという決断をした。第一歩として、それまで現地での留学説明会で用いていたPPT資料を利用し、中国語版の留学説明ビデオを3月下旬に中国の学生に向けて配信した。続いて、オンライン留学説明会を計画し、まずは東アジア地域のモンゴルと中国の学生に向けて開催した。当初はZOOMの画面共有機能を使いこなせず、動画が再生できないなどのトラブルで、スライドの口頭説明のみという場合もあった。しかし、徐々に大学の概況と留学プログラムなどに関す

る紹介に加え、現役留学生による経験談と質疑応答などの交流部分を設定し、インタラクティブなやり取りができるようになった。

さらに、プロジェクターとカメラなど機材を充実させることで、動画再生や音声の質を向上させ、音声や画像の途切れといったトラブル回避も出来るようになった。

2020年末までに、東アジアとASEAN地域の多数の国／地域に向け、オンライン留学説明会を十数回開催し、あるいは一部参加してきた。今後は分野別のオンライン留学説明会を強化し、年度内に合わせて35回程度を実施する予定である。

表1 大阪大学オンライン留学説明会の実施状況
(2020.12.11 現在)

対象国／地域	言語	回数	開催時期	参加人数
モンゴル	モンゴル語	2	5月－11月	48
中国	中国語	12	6月－12月	20588
全世界	英語	3	7月－11月	620
インドネシア	インドネシア語	1	7月	157
タイ	タイ語	2	9月	108
ミャンマー	ミャンマー語	2	9月	126
ベトナム	ベトナム語	1	10月	51
ロシアと中央アジア	ロシア語	1	11月	52
韓国	韓国語	2	11月－12月	23

このように経験を重ねながら実施方法を改善し、オンライン留学説明会の企画と実施のステップを標準化してきた。例えば、参加者を募集、説明会の開催のリマインダーのノウハウ。さらに、優秀な留学生をリクルートするという観点から、対象をやみくもに広げるのではなく、むしろ参加者を限定する工夫。また、チャットアプリケーションソフトウェアの使用状況は国／地域差があるので⁽³⁾、適応性を考えながら活用し、参加者とより効果的にコンタクトする方法などを修得してきた。

中国を例に挙げると、WeChatのグループチャット機能は募集にも、参加者のスクリーニングにおいても有用なツールである。説明会当日に質問に全て回答できない場合にも、終了後にグループチャットで対応することができ、参加者との交流チャットグループは新しい情報イベントの通知等にも活用できる。

また、開催後には、参加者の声を聞きながら、PPTなどのコンテンツの内容を修正し、開催方法を改善した。例えば、6月13日に実施した中国の大学生向けのオンライン留学説明後のアンケート調査結果は次のようなものである。

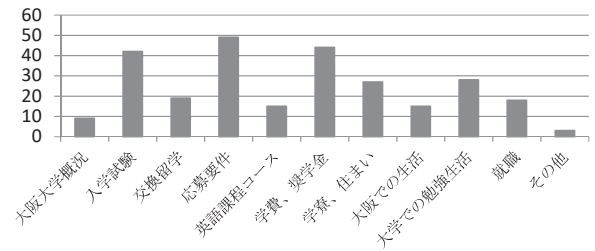


図3 参加者の声：阪大についてもっと知りたいこと

64名の参加者（学部生48名、修士課程在学生12名、その他4名）のうち、「阪大についてより多く知りたいことは？」という質問を聞いたところ、「応募要件」（49名）、「学費、奨学金」（44名）、「入学試験」（42名）などに関して高い関心を持っていることが分かった。

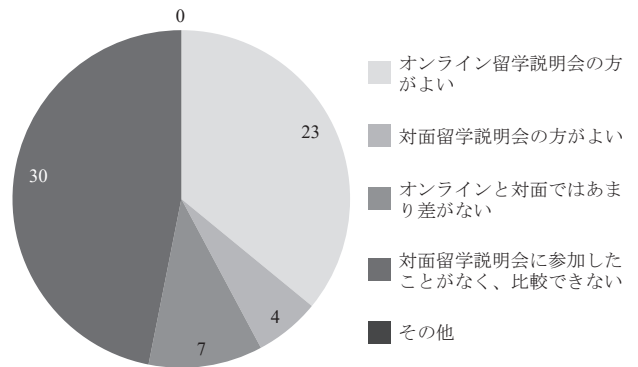


図4 参加者の声：オンライン留学説明会に参加した感想

また、対面で開催される留学説明会（4名選択）より、オンラインで開催される説明会の方がよい（23名選択）という結果がでた。その理由として、「参加しやすく、便利」「地域や場所に縛られない」「防疫対策としてよい」などが述べられた。一方、対面説明会を選択した人数は少ないが、「対面で交流を深めることができ、その場にいる皆とも交流できる」「参加者としての臨場感がある」などの指摘があった。

このほか、参加者から研究分野別の詳しい紹介と説明がほしいという要望も寄せられた。

このような学生の声を参考に、分野別のビデオ、Q&A集の作成、大学紹介PPTの改訂などを行い、分野別のオンライン留学説明会を企画した。それぞれの分野から専門の教員も参画し、2020年9月下旬から10月の下旬まで、理系、文系を含め、合わせて4回開催した人工知能、基礎工学、生命機能などの分野に関する説明会は、非常に好評であった。専門の教員が直接、研究のポテンシャルや最先端の実績を説明することは、留学生獲得だけでなく、国際的に本学の魅力を発信することにつ

ながる。

オンライン留学説明会の開催に伴い、阪大概況、留学生の声、PPTのナレーション収録、開催映像の録画収録など、コンテンツが充足してきた。さらに、母語話者による大学紹介を録音した英語版、中国語版、モンゴル語版、ミャンマー語版、ベトナム語版、タイ語版の作成と配信など、コンテンツの多言語化も進んでいる⁽⁴⁾。

3.3 遠隔授業の新しい取組

近年、「多様化する社会と学生のニーズに応えつつ質の高い教育を提供していくためには、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等を推進することで、大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開していくこと」⁽⁵⁾の重要性が高まっている。特にウイズ・コロナ／ポスト・コロナ社会においては、オンラインツールを活用する遠隔授業のような教育の現場における新たな取り組みが、このような高度な教育の基盤を成すと考えられる。また、遠隔授業の海外配信は実際の授業を海外の学生が体験できるため、留学生リクルートの一手段ともなる。

ここでは、大阪大学日本語日本文化教育センターと大阪大学グローバルイニシアティブ・センターが協力して、ZOOMを使用した同時双方向型授業「日本思想文化研究基礎」(リレー講義)を、中国の協定校向けに配信した例を紹介したい⁽⁶⁾。この授業は日本語日本文化教育センターで正規に開講されているもので、4月に同済大学の学生向けにスタートしたが、上海交通大学が加わり、6月からは大連理工大学の日本語学科の学生も参加した。中国の学生は遠隔授業に慣れているといわれているが、通常、自室にて画面共有で授業を受けている彼らにとって、日本語日本文化教育センターが提供する遠隔授業には教室授業の臨場感があり、配信は非常に好評であった。授業の内容は、「なぜ日本の絵や人形はこちらを向かないのか?」「日本にはなぜ鬼や河童などの妖怪が多いのか?」「日本にはなぜ髪をそらないお坊さんがいるのか—日本仏教における「行」の意味を考える」などで、日本の文化、文学、思想などから幅広く選ばれた。さらに、教員と学生の質疑応答による相互交流や、ZOOMのブレイクアウト・ルーム機能を利用したグループ・ディスカッションするなどインタラクティブな授業であることも学生の支持を得た。このように、リモートで授業配信することにより、協定校との関係をより強化し、コミュニケーションや国際連携の深化につなげることができる。

前期に参加した中国の大学生より次のような声が寄せ

られた。

「x月x日に受講しました。先生はよく準備されて、聴く側である学生の気持ちをよく考えていることが分かります。また、非母語話者の受講生を配慮し、ゆっくりとしたスピードで説明しました。質疑応答の方式で受講生と相互交流し、グループ分けで受講生同士で自由にディスカッションもできました。日本語の口語の練習として、とても良い機会と思います。」(Lさんより)

「x月x日の回に参加しました。内容はとても面白く、先生は明瞭に説明しました。今まで考えたことのない題目ですが、聴いてみたら、中国にも似ているような写真の変遷があると気付きました。今後これに関して資料を調べてもっと勉強したいと思います。とてもいい勉強になりました。今後も引き続き阪大の遠隔授業に参加したいです!」(Xさんより)

この遠隔授業は2020年度後期にも実施され、中国の3大学が参加の予定である。

ここまで「龍門窓口のオンライン申請システム」「オンライン留学説明交流会」と「遠隔授業」というオンラインによる留学生リクルートシステムの各構成要素について紹介した。これらは既存のツールとコンテンツを活用しながら、コロナ新時代に対応した新たな利用法を模索してきたものである。さらに、この三つの構成要素はより連携を強化することで、相乗効果を高めることができる。例えば、留学生の申請手続きを援助する龍門窓口のオンライン申請システムの開発は、学生達が高い関心を持つ入学関連の支援であり、オンライン留学説明会の留学申請に関する説明に大いに役立つ。逆に、このような説明とプロモーションが龍門窓口のオンライン申請システムを促すことになるので、言わば互恵的な関係である。また、遠隔授業に参加することで、阪大の学習の雰囲気を実感した学生は阪大留学への関心が高まり、次のステップとしてオンライン留学説明会に参加する。このように、この3つのプラットフォームは有機的な連携体制を構成することから、図1に示すように、「三点連合オンラインリクルートシステム」と呼ぶ。今後も有機的な連携体制として活用し、さらに各部分を強化し、新たなプラットフォームを加えることで、大学の留学生リクルート活動に役立つと考えられる。

4. 展望と課題

本稿では、現在のウィズコロナの状況下において、大阪大学が「オンライン」という手法を用いて、留学生のリクルートに関わる有機的な連携体制を構築し、「龍門窓口のオンライン申請システム」「オンライン留学説明交流会」と「遠隔授業」の各部分を検討し、実施し、改良してきた実践事例を紹介した。

オンラインという方法は従来は十分活用されてこなかったが、新型コロナウイルスを契機として試行錯誤して、今後さらなる活用が期待できることが明らかとなった。それでは、今後、オンラインツールの使用が、大学の国際交流活動をいかに発展させる可能性があるのだろうか。まず、オンラインツールには、次のようなメリットがある。

- 1) 外国人在学生や卒業生、部局の教員など、多様なステークホルダーが関わるができる。
- 2) 異なる部門間でリソースを共有することができる。
- 3) 低コストで留学生のリクルート活動ができる。

1) の例としては、卒業生、在校生、部局の教員がオンライン説明会に積極的に参加し始めたことを挙げられる。現地における留学説明会にこれだけ多様な参加者を動員することは困難で、オンラインであるからこそ実現できた。部局の教員が自ら、最先端の学術成果を語ることは、留学希望者の関心を引きつけるために最も効果的である。卒業生と在校生は、彼らの留学経験から留学希望者にアドバイスができる。また、留学希望者はその場で質問をしたり、教授、卒業生、在学生などと直接交流ができる。さらに、大学本部と部局との緊密に協力や、卒業生や部局教員、職員との協働により、学内構成員が国際交流に対する意識を高め、留学生受け入れの重要性を再認識するきっかけとなった。2) については、オンラインセッションの経験を積み重ねることで、学内リソースを集約し、ウェビナーを開催するための共有スペースや機材の準備等のノウハウを蓄積した。さらに、ホームページやソーシャルメディアなどで協力して企画を宣伝した。作成したプレゼンテーション用PPTやQ&A集は共有し、効率を高めるとともに、お互いから学ぶことができた。3) は当然ながら、留学フェア等の対面での伝統的なリクルート活動に必要な海外出張費がオンラインでは不要である。

加えて、これらのメリットを生かし、従来、費用対効果の面から主要な留学生送り出し国・地域に偏りがちであったリクルート活動を拡大することが容易となった。

例えば、2020年末にはロシア、ウズベキスタン、インド在住の学生向けのオンライン留学生説明会を開催し、北アフリカなどの地域でも実施した。オンラインがこれらの容易に足を運ぶことのできない地域におけるリクルート活動を可能にした。このようなリクルート活動の国と地域の拡大は、将来にむけて、学内における留学生集団の多様性向上、学内のダイバーシティ向上に寄与すると考えられる。

次に、学内関係者や卒業生がオンラインで次世代の学生たちと交流し、大学の国際交流活動に参加することで、大学国際化への理解を深め、参加型の国際交流を推進することができる。しかも、リソースの共有や研究室・自室からの参加により、負荷を軽減することで、裾野の拡大につながることは間違いない。すなわち、学内で国際化の理解者や支援者を増やし、国際の「メインストリーム（主流）化」を達成する。これらは、中長期の大学国際交流の展開を考える上で、非常に大きな示唆をもつものである。

最後に、課題についても述べたい。まず、技術的な向上である。例えば、適切なプラットフォームを選択したり、ビデオをシームレスにストリーミングする方法については、まだ課題がある。また、録画ビデオのストリーミングには大量のデータが必要であるため、受け手の立場に立って見せ方を工夫する必要がある。大阪大学の学生生活、授業のスケジュール、留学費用などの人気コンテンツは、メインPCとは別のスクリーンとプロジェクターを使用して参加者に見せる等の改善方法とノウハウも関係者で共有し、検討する。また、開催を周知するPR活動にも課題がある。多数の登録者を集めるためには、提携大学への連絡とソーシャルメディアのウェブサイト活用だけでなく、大阪大学のウェブサイトや公式ソーシャルメディアチャネルと組み合わせる必要がある。プロモーション活動は、学生を引き付け、大阪大学への出願を促すために、ウェビナーの前だけでなく、年間を通して行う必要がある。多くの調査で、学生が大学からの頻繁な連絡を期待していることがわかったためである。さらに新たな可能性の一つは、電子メールのプロモーションである。英語、中国語、日本語での大阪大学の最新情報を届けることは非常に有効であると分かった。すなわち、「Z世代（ジェネレーションZ）」と呼ばれるデジタル・ネイティブ世代にアプローチするためには、大学も技術、メディア、コンテンツを再考する必要がある。

このように、新型コロナウイルスがもたらしたものは、

単に対面からオンラインへの変化だけではない。留学生リクルート活動の将来を展望すると、留学希望者が、自分のほしい情報を、ほしい時期に、しかも好みのメディアを通して入手する方向に変化する流れは不可逆と考える。すなわち、不特定多数への情報提供から、個人への情報提供の時代に大学も対応しなければならない。

このような問題意識に基づき、3章の図1で示した、オンラインリクルートシステム連携体制を図5のように発展させることを提案し、目指したい。すなわち、龍門窓口の申請データから、学生たちが興味を持つコンテンツを選別し、拡充する。また、学生が興味を持つ内容を含む授業をオンライン配信する。留学説明会や遠隔授業で大阪大学に興味を持った学生を、効果的に龍門窓口へ誘導する。



図5 三点連合オンラインリクルートシステムの展望版

新型コロナウイルス禍の状況下において、物理的移動を伴う人的国際交流には厳しい制限が課せられたが、様々な対応策を講じざるを得ない経験から貴重な教訓を得た。むしろ、制限があったからこそ、今までにない方法を生み出すことができた。これまで実践したオンライン留学説明会やオンライン会議は前述のように多くのメリットがあり、オンラインコンテンツの充足、地域と場所に縛られない留学説明会の開催方法の活用、オンラインで行う各事業の有機的な連携など、これまでとは異なる新たな取組をかさねていくことが、コロナ新時代における国際協働ネットワークの強化や国際交流推進に寄与することは間違いない。

しかしながら、学生アンケートにみるように、対面方式にもそれなりのメリットがあることから、コロナ新時代における留学生リクルート活動は、オンラインとオフライン（対面方式）の両方が活用されると想定できる。情報通信技術を駆使することにより、従来の方法では実施が困難であった国際交流事業を展開し、新たな手法を試み、多くのステークホルダーと協力することで、より

グローバルな展望から、次世代の大学を構想したい。新型コロナウイルス感染症の影響を発端とした新しい連携事業を推進するなかで、我々が得た知見を、今後も大学の国際展開に生かしたいと考えている。

受付2020.10.15／受理2021.1.12

謝辞

本研究の一部は、大阪大学研究支援員制度の支援により実施されました。

注

- (1) 211工程（プロジェクト）は中華人民共和国教育部が1995年に定めたもので、このプロジェクトに選ばれた大学を211工程重点大学という。また、985工程（プロジェクト）は中華人民共和国教育部が1998年5月に定めたもので、211工程の中で限られた重点大学に重点的に投資していくプロジェクトである。このプロジェクトに選ばれた大学は985工程重点大学と呼ばれている。
- (2) 大阪大学の新型コロナウイルスへの対応については<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/news/info/corona>を参照。（2020年10月14日最終確認）
- (3) チャットアプリケーションソフトウェアは国や使用制限の有無によって差がある。日本やアメリカなどではLineやTwitterなどが多く使用されているが、中国ではWeChat、韓国ではKakaoTalkが多く使用されている。
- (4) 大阪大学YouTube公式チャンネルで公開。リンクは本文末参照。
- (5) 文部科学省「令和2年度「教育関係共同利用拠点」の認定について」の教育関係共同利用拠点制度の趣旨より。https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigakukan/1420154_00001.htmを参照。（2020年12月18日最終確認）
- (6) 大阪大学日本語・日本文化教育研修共同利用拠点事業の最新情報を参照。<http://www.juec.cjlc.osaka-u.ac.jp/news/>（2020年12月18日最終確認）

参考文献

- 李明・石川真由美・韓立友（2019）「中国からの入学志願者に対する学歴・資格評価の実践と課題：優秀な大学院留学生の受入れ促進に向けて」『大阪大学高等教育研究』第7号。31-39頁。大阪大学全学教育推進機構。
- 薛成龍・李文（2020）「国外三所大学线上教学的经验与启示」『中国高教研究』第4期。12-17頁。中国高等教育学会。
- Castañeda L. & Selwyn N. (2018) More than tools? Making sense of the ongoing digitizations of higher education. *International Journal of Educational Technology in Higher Education*. 15(22). 1-10.
- Henderson M., Selwyn N. & Aston R. (2017) What works and

why? Student perceptions of ‘useful’ digital technology in university teaching and learning. *Studies in Higher Education*. 42(8). 1567-1579.

Hisel D. J. & Pinion C. (2020) Student recruitment and engagement in the COVID-19 era. *Journal of Environmental Health*. Retrieved from: <https://www.neha.org/sites/default/files/jeh/JEH9.20-Column-Direct-From-AEHAP.pdf>

IAU (International Association of Universities) (May, 2020) Global Survey Report: The Impact of COVID-19 on higher education around the world. Retrieved from: https://www.iau-aiu.net/IMG/pdf/iau_covid19_and_he_survey_report_final_may_2020.pdf

IDP connect (July 2020) International student crossroads: Demand for an on-campus education amidst COVID-19. Retrieved from: https://resources.idp-connect.com/hubfs/IDP-Connect_Student-Survey_2020_infographic_FINAL.pdf

Watermeyer R., Crick T., Knigh C. & Goodall J. (2020) COVID-19 and digital disruption in UK universities: afflictions and affordances of emergency online migration. *Higher Education*, 1.

Zhu Yimei (2019) Social media engagement and Chinese international student recruitment: understanding how UK HEIs use Weibo and WeChat. *Journal of Marketing for Higher Education*. 29(2). 173-190.

オンライン・コンテンツ一覧 (2020年10月14日現在)

・英語版：

English Study Abroad Session video.

<https://www.youtube.com/watch?v=vDsmYGxzy2I>

・モンゴル語版：

Mongolian Study Abroad Session video.

<https://www.youtube.com/watch?v=KfyGWvVl1DE>

・中国語版①：

Chinese Study Abroad Session video.

<https://www.youtube.com/watch?v=gguA2Wps3xs>

・中国語版②：

大阪大学留学 (Study abroad in Osaka University).

<https://www.youtube.com/watch?v=IVSw5Yzz-Ns>

・ミャンマー語版：

【Myanmar version】 Study Abroad at Osaka University.

https://www.youtube.com/watch?v=pqQzjg9_wqg

・タイ語版①：

【Thai version】 Study Abroad at Osaka University.

<https://www.youtube.com/watch?v=XU9N92XeVEM>

・タイ語版②：

【Thai Alumni Talk】 Study Abroad at Osaka University.

<https://www.youtube.com/watch?v=AoR3jPFNohA>